

講演4

北海道大学CoSTEPの学術誌
『科学技術コミュニケーション』

種村剛
『科学技術コミュニケーション』編集委員長 CoSTEP特任助教
川本思心
同 副編集委員長 理学研究院/CoSTEP 准教授

科学技術コミュニケーション
JJSC Japanese Journal
of Science
Communication
日本初の科学技術コミュニケーション専門誌 CoSTEP

北海道大学CoSTEPとは

- 北海道大学 高等教育推進機構
オープンエデュケーションセンター
科学技術コミュニケーション教育研究部門
(CoSTEP : コーステップ)

→ くわしくはウェブで
・ <https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/costep/>

科学技術コミュニケーション 2


学術誌『科学技術コミュニケーション』
(JJSC) の概要

- 2007年3月、日本初の科学技術コミュニケーションに特化したジャーナルとして創刊（今年で10周年）
- CoSTEPが発行、『科学技術コミュニケーション』編集委員会が編集
- 定期的に発行、投稿は365日受付
 - 年2回、6月と12月に発行
 - 現在21号編集中

科学技術コミュニケーション 3

JJSC 創刊の目的

- 科学技術コミュニケーションの活動報告
- 交流の場
- 知識の累積



科学技術コミュニケーション 4

JJSC21号担当 編集委員会

- 種村 剛 (CoSTEP)
- 川本 思心 (理学研究院/CoSTEP)
- 池田 貴子 (CoSTEP)
- 奥本 素子 (CoSTEP)
- 重田 勝介 (情報基盤センター)
- 立澤 史郎 (文学研究科)
- 西尾 直樹 (CoSTEP)
- 早岡 英介 (CoSTEP)
- 古澤 輝由 (CoSTEP)
- 松王 政浩 (理学研究院)
- 村井 貴 (CoSTEP)

CoSTEPのスタッフが編集委員会の中心

科学技術コミュニケーション 5

JJSC 年間予算

- CoSTEPの予算から120万円を計上（2016年度）
- 2016年度は約100万円が印刷・製本費用（2巻、それぞれ500部印刷）

科学技術コミュニケーション 6

JJSC21号の刊行スケジュール

- 3月頭：21号掲載を目指す場合の締切目安
- 3~4月：査読結果連絡、著者修正・確認
- 5~6月：掲載原稿集約、第1校著者校正
著者校正戻し、第2校、編集の確認
- 6月末：原稿をHUSCAPに登録
- 7月末：冊子体の印刷、関係者への送付
- 第21号は小特集（査読無・寄稿）を掲載
 - CoSTEP主催のシンポジウム講演録を中心に構成
 - 科学技術とアートがテーマ



JJSC の特徴 (1)

- 誰でも投稿できる
 - 投稿資格なし
 - 投稿のためのアドバイザーを設置
- 誰でも読める
 - ウェブから全文を読むことができます
 - <http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/jjsc/>
- 査読料・掲載料は無料

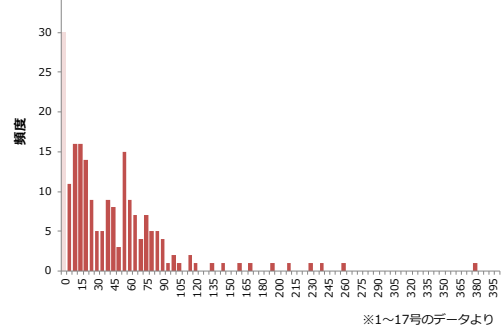


JJSC の特徴 (2)

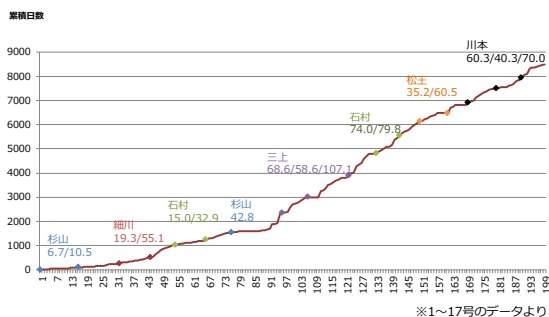
- 北海道大学学術成果コレクション HUSCAP登録
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/>
- HUSCAPからダウンロード履歴を確認可
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/statistics/statslist.php?statsurl=2072b8v850v2x8c>
- 「JJSC」を読む会を開催
 - 有志の北大教員による「JJSCを読む会」主催

JJSCの特徴 (3)

迅速な査読・発行



累積査読日数



JJSCの特徴 (4)

実践を中心とした多様な内容



- 掲載原稿のキーワードの頻度から
 - 1本につき5つのキーワードが指定されている
 - 168原稿のキーワードを使用
 - <http://www.wordle.net/>

Science Communicationを除去



- 実践活動に関する論考が多い
- 多分野からの投稿
 - 科学技術社会論・科学広報・科学技術ジャーナリズム・科学哲学
- 学生・非研究者からも投稿

境界領域のジャーナルとしての課題

- 理工系
 - 事例を網羅的に記述してしまう
 - 事例をどのような観点で分析するか
 - 何を記録しどう分析することでそれが明らかになるのか
 - 基本は理工系の論文とそれほど変わらないが...
- 人文社会系
 - 科学技術コミュニケーションとしての意義が不明瞭
 - 既に個別専門分野で明らかになっていることの焼き直しでは？
 - その分野の研究者に査読を依頼
- 非学術系
 - そもそも書いた事がない/書く動機が強い



課題への対応

1. フォーマットの作成 (14号～)
 - 執筆要領に従わない原稿の多さ
 - 投稿用テンプレートファイル (MS Word) を用意
2. 原稿種類に「ノート」を追加 (15号～)
 - 論文・報告・ノート
 - 実践活動や事例考察を、素早く簡潔に公開
3. 編集方針等の改訂 (15号～)
 - 投稿者に対して
 - 専門外でも背景と内容が理解できるように書く
 - 科学技術コミュニケーションとしての意義を示す
 - 編集者・査読者に対して
 - 教育的観点からの査読



査読基準

詳細については
ウェブサイトを参照

- 有用性
 - 科学技術コミュニケーションの論考として有用か
- 相対性
 - 先行事例を踏まえているか
- 新規性
 - 先行事例との違いはあるか
- 信頼性
 - 論旨・根拠は明快か
- 形式性
 - 文章は明晰か、執筆要領に合致しているか

論文・報告・ノートの違い

- 異なる「有用性」 ← 有用性
- ※ 参考)
 - 学術的・マクロ/複数事例
 - 論文 > 報告 > ノート
 - 実践的・個別事例
 - 報告 ≧ ノート ≧ 論文
 - 速報的・記事的・エッセイ的
 - ノート >> 報告 > 論文



まとめ



- 意義
 - 真にオープンな日本唯一の科学技術コミュニケーション学術誌
 - 定期的・迅速に刊行しジャーナル共同体を立ち上げ・維持
- 課題
 - 次世代の育成・幅広い分野からの投稿
 - 学術的性格と実践的性格のバランス